

2024 年度事業報告書

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 ISAPH

1. 実施事業の概要

2024 年度は、前年度に引き続き、社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院と協働して国際協力事業（東南アジアのラオスにおける母子保健・栄養事業、アフリカのマラウイにおける母子栄養改善事業）を実施したほか、団体独自の事業として、教育・研修事業、調査・研究事業に取り組んだ。

国際協力事業では、ラオス中部カムアン県サイブートン郡にて、2020 年 10 月にラオス政府と了解覚書（MOU）を交わした地域母子保健事業を継続した。当該 MOU は、2024 年 9 月に終了したため、昆虫養殖に関する事業のみ、別に覚書を取り交わした。マラウイ北部ムジンバ県での事業は、風に立つライオン基金からの助成を受け、これまでの活動を新しくエンディンデニヘルスセンター地域に展開し、引き続き地域の栄養改善に取り組んだ。

教育・研修事業では、外務省 NGO インターン・プログラム対象者 1 名をラオス事務所に派遣し、今後の専門家として活躍できるよう育成に励んだ。また現地スタディツアーを 4 大学に実施、大学生・大学院生インターン 2 名の受け入れや 7 件の出前講義など、例年通りの活動を継続した。

調査・研究事業では、昨年度に続いた長崎大学との共同研究のほかに、他団体の学術研究における現地調査を受注、外務省 NGO 事業補助金を活用した新規案件形成にかかる現地調査を実施した。

2 事業の実施に関する事項

事業名	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施期間 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	受益対象者の 範囲と人数	事業費（単 位：千円）
保健・医療分野の 国際協力事業(1) 「ラオス国母子 保健向上プロジ ェクト（フェーズ 2）」	◆母子保健に関する住民への啓 発活動と妊産婦と乳幼児への健 康支援 ラオス中部のカムアン県サイ ブートン郡にて、母と子の健康 を守るため、①教育啓発活動、② 地域ボランティアの育成、③ラ オス政府と協力した母子保健サ ービスの提供を行った。	(A) 2020 年 10 月～ 2024 年 9 月 (B) ラオス国カムア ン県サイブート ン郡 (C) 4 名	サイブートン 郡 45 村人口： 約 27,000 人 対象①旧 3 村： 約 2,700 人 対象②新 10 村： 約 2,500 人	6,277
保健・医療分野の 国際協力事業(2) 「ラオス国昆虫 養殖技術普及事 業」	◆昆虫養殖技術普及支援 農村部で養殖技術の普及を続 けた結果、2025 年 3 月の時点で、 合計 90 世帯以上の昆虫養殖小規 模農家の育成を達成できた。 現地行政（商工局）より、養殖 された昆虫を地域の「特産品」と して生産・販売を拡大したいと の要請を受け、来年度も本事業	(A) 2020 年 12 月～ 2025 年 3 月 (B) ラオス国カムア ン県サイブート ン郡(旧 3 村)	3 村人口： 約 2,700 人	

	を継続させていく。	(C)3名		
保健・医療分野の国際協力事業(3) 「マラウイ国母と子の地域栄養改善事業」	◆母と子の栄養改善活動 雪の聖母会聖マリア病院と協力し、ムジンバ県エンディンデニ保健センター地域において、村人を中心とした地域主体の栄養改善活動を実施する。また次の大型事業に発展させるため、関係者とのネットワーク構築、地域の基盤づくりに取り組んだ。	(A) 2024年4月～ 2025年3月 (B) マラウイ国 ムジンバ県 (C)10名	エンディンデニ保健センター管轄地域人口： 約27,000人のうち一部の地域	2,439
保健・医療分野の教育・研修事業(1)	◆現地スタディツアー 4大学(聖マリア学院大学、東京科学大学、東京医科大学、山梨県立大学)から依頼を受け、ラオスでのスタディツアーを実施した。	(A) 2024年8-9月、 2025年2月 (B) ラオス (C) 1名	30名 ※教員含む	2,632
	◆インターン/学生研究支援 外務省 NGO インターン・プログラムとして有給のインターンをラオス事務所に派遣 学部生1名に対して、東京事務所およびマラウイ事務所にてインターン受け入れを行った。 大学院生1名に対して、ラオスにおけるフィールド調査の支援を行った。	(A) 随時 (B) 東京 ラオス マラウイ (C) 2名	インターン・プログラム1名 大学生・大学院生2名	
	◆出前講座 小学校・大学において、国際保健医療協力や海外での草の根活動の実際について、講義を行った。	(A) 随時 (B) 日本国内/オンライン (C) 3名	大学6校 小学校1校	
保健・医療分野の調査・研究事業(1)	◆新規事業の案件化調査(栄養) 保健サービスが届きにくい遠隔地域にて、子どもの食事内容に関する実態調査を行った。加えて、公的保健サービスを提供	(A) 2024年10月～ 2025年2月 (B)	3郡の調査対象世帯数：180	2,753

	<p>する行政機関（郡保健局・県保健局・保健省）および援助関係者からも聞き取りを実施し、今後のプロジェクト形成にかかる情報を収集・分析することができた。</p>	<p>ラオス国カムアン県郡（ニョンマラート郡、ナーカーイ郡、ボラパー郡） (C)4名</p>		
	<p>◆昆虫食文化圏における「食物としての昆虫」に対する摂食動機とその変化（科研費） 聖マリア研究センターと業務委託契約の下、雨季と乾季に分けて、ラオス都市部および農村部における昆虫食の摂食動機に関する調査を行った。</p>	<p>(A) 2024年10月～ 2025年2月 (B) (C)4名</p>	<p>調査参加者： 約90名</p>	
	<p>◆マラウイにおける長崎大学との共同研究事業 マラウイの子どもの栄養不良の背景となる、住民の「食物に対する価値観、考え方」について文化人類学的視点から探求する。 現地住民に対してパイルソートやフォトボイス、質的インタビューを実施した。</p>	<p>(A) 2022年4月～ 2025年3月 (B) マラウイ国 ムジンバ県 (C) 3名</p>	<p>調査参加者： 約100名</p>	
	<p>◆在留外国人のヘルスケア・アクセスに関する調査 福岡県の8万人以上という在留外国人の医療機関へのアクセスに関する課題の調査。 在留外国人と医療機関の間にいるNPO/NGO/CSOを対象として、地域の担い手が在留外国人のヘルスケア・アクセスにどのような役割を果たしているかを調べる。2024年度は、アンケートおよびインタビューによる調査を行った。</p>	<p>(A) 2023年4月～ 2025年3月 (B) 福岡県全域 (C) 1名</p>	<p>NPO/NGO/CSO 約500団体/個人</p>	

2024年度収支決算報告

項目	金額	内容
前年度繰越金	18,734,509	
収入	10,800,026	
収入内訳	807,000	会費
	213,327	寄付金
	5,865,837	助成金・補助金
	3,556,886	事業収益(業務委託等)
	356,976	その他
支出	16,314,068	
支出内訳	6,276,631	国際協力事業(ラオス)
	2,439,434	国際協力事業(マラウイ)
	2,631,637	教育・研修事業
	3,599,135	調査・研究事業
	1,224,620	管理部門
	142,611	その他(雑費・法人税等)
収支差	△ 5,514,042	
2024年度末期預金額	13,220,467	

2025年度予算

項目	金額	内容
前年度繰越金	13,220,467	
収入	16,400,000	
収入内訳	900,000	会費
	300,000	寄付金
	7,200,000	助成金・補助金
	7,700,000	事業収益(業務委託等)
	300,000	雑収入
支出	16,400,000	
支出内訳	12,200,000	国際協力事業(ラオス)
	1,000,000	国際協力事業(マラウイ)
	500,000	教育・研修事業
	1,500,000	調査・研究事業
	1,000,000	管理部門
	200,000	その他(雑費・法人税等)
収支差	0	
2025年度末期残高	13,220,467	

貸借対照表
2025年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	12,463,607		
短期貸付金	130,016		
立替金	0		
未収入金	782,237		
流動資産合計		13,375,860	
2 固定資産			
有形固定資産			
車両運搬具	7		
固定資産合計		7	
資産合計			13,375,867
II 負債の部			
1 流動負債			
未払法人税	141,000		
未払消費税	14,400		
流動負債合計		155,400	
負債合計			155,400
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		18,734,509	
当期正味財産増減額		-5,514,042	
正味財産合計			13,220,467
負債及び正味財産合計			13,375,867